中学教师《专业合格证书》日语教材

日语

—

（供高中教师用）

RI YU

东北师范大学出版社

中学教师《专业合格证书》日语教材

日　　语

（供高中教师用）

主编　陈恩久

东北师范大学出版社

中学教师《专业合格证书》日语教材

日　　语

（供高中教师用）

主编　陈恩久

东北师范大学出版社出版

（长春市斯大林大街110号）

吉林省新华书店发行　　沈阳市第六印刷厂印刷

开本：787×1092　1/32　　印张：20.875　字数：462千

1989年10月　第1版　　1989年10月　第1次印刷

印数：1—1500册

ISBN　7-5602-0359-0/H·34　　定价：4.00元

说　　明

《中共中央关于教育体制改革的决定》提出："要争取在五年或更长一点的时间内使绝大多数教师能够胜任教学工作。在此之后，只有具备合格学历或有考核合格证书的，才能担任教师。"为了贯彻落实这一要求，国家教育委员会决定建立中、小学教师考核合格证书制度，并于1986年9月颁发了《中小学教师考核合格证书试行办法》。根据该《试行办法》的规定，我们已经组织编写出版了中、小学教师《专业合格证书》文化专业知识考试各科教学大纲。现在，我们又按照教学大纲的基本要求，组织编写出版这套教材，供中、小学教师参加《专业合格证书》文化专业知识考试用。这套教材包括：中等师范11门课程、高等师范专科14个专业的48门课程、高等师范本科12个专业的40门课程，以及公共教育学、心理学课程用书。

这套教材的编写力求具有科学性、系统性和思想性，并努力体现以下原则和要求：要有鲜明的师范性，紧密联系中、小学教学的实际；要符合成人在职进修的特点，便于教师自学、自检；要使大多数教师经过努力可能达到规定的要求。

考核合格证书制度刚刚试行，尚缺少经验。加之这套教材出版时间仓促，难免存在一些问题。我们准备继续在实践中研究和探索，争取用几年的时间，建设一套适合我国中、

小学在职教师进修的教材。希望全国师范教育工作者、尤其是从事在职中、小学教师培训工作的同志为此共同努力。

这套教材在编写、出版和发行工作中，得到了各省、自治区、直辖市教育行政部门，许多师范院校、教育学院、教师进修学校和师资培训中心，许多专家和教师，以及有关出版社和教材发行部门的大力支持和帮助，在此，一并致谢

国家教育委员会师范司

1987年8月15日

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

前　言

为了帮助高中日语教师进修日语专业本科必修课程，参加《专业合格证书》的考试，根据国家教委制定的《高中教师进修日语本科的精读课教学大纲》的精神，结合中学教学实际，编写了这本《日语》（高中教师用）精读教材。

这本教材为高中日语教师《专业合格证书》文化专业知识考试国家教委指定教材。

本册教材在编写过程中，一直遵循从中学日语教学实际出发的原则，充分考虑到成人、在职、师范等特点，尽力满足中学日语教学指导的要求。为此，突出了以下几点：

一、本册教材将《日语》（初中教师用）中所编排的语法项目重新按功能语法组织安排，共编入三十五种功能语法项目。这就使日语语法在这两册教材中形成纵横交错的网络，而又泾渭分明。这样编排，便于掌握这些语法知识，适合中学教师进修学习。

二、按文章体裁选编课文，并就文体及读解方法进行了说明。

三、每篇课文后增设了《知识介绍》项目，该项目中较系统地归纳、整理了日语的构词法、句法及修辞等基础知识。

本册教材由陈恩久同志主编，赵德玉、刘青柯两位同志编写。辽宁省教育委员会郭东岐同志为本册教材的编写做了大量的组织和指导工作。

本册教材由辽宁师范大学副教授陈善耆和副教授简佩芝主审，副教授金荣一也参加了审定工作，谨致谢忱。

由于水平和时间的限制，缺点和错误还会不少，恳请识者正之。

编　　者

1988.3.10

目　　録

第 1 課　自然と科学……1
第 2 課　私たちのくらし……15
第 3 課　心を伝える……37
第 4 課　蓬莱の玉の枝……50
第 5 課　少年の日の思い出……70
第 6 課　母の思い出……99
第 7 課　啄木の歌……119
第 8 課　教養とは何か……136
第 9 課　若い世代と敬語……161
第10課　ことわざ……186
第11課　セメント樽の中の手紙……208
第12課　新聞の役目と社説……230
第13課　ツルの恩返し……263
第14課　トロッコ……292
第15課　夏の花……315
第16課　夏の日記……352
第17課　隔絶の時代……368
第18課　手紙……383
第19課　環境汚染への視点……404
第20課　人間の叡知を……422
第21課　ことばの研究……439

第22課　日本語の特色 ……46
第23課　憲法をよむ ……480
第24課　創造力のゆくえ ……499
第25課　おふくろの消息 ……520
第26課　無名の人 ……539
第27課　故郷 ……557
第28課　幸福 ……585
第29課　劇曲 ……608
第30課　詩・短歌・俳句 ……637

第１課

自然と科学

大谷省三

「人間は解決できる問題だけを問題にするのだ。」とは、マルクスというドイツの学者のことばですが、これは逆に言えば、人間が問題にするようになった問題は、すべて解決できるということになります。

人間は、本気で物事を考え、本気で、こうあってほしいと考える場合には、そうでたらめを考えることができるものではありません。人間は、現に、自分の生きている世界をはなれては物事を考えるものではないのです。ですから、わたしたちが問題にする問題は、すべて、今、わたしたちが生きている、この世界につながっているのです。そして、この世界は、われわれ人間がつくり出したものなのです。この世界は、長い人間の歴史を通じて、つくり出されたものなのです。人間がつくり出したものに関係する問題であるならば、人間の力で解決できないはずはありません。

人間は、自然をはなれては生きていくことはできません。しかし、人間が生活するようになった自然は、生まれ

たままの自然ではなくなります。人間はかならず、自然を多少なりとも加工するからです。自然に手を加えて、自分が生きやすいように自然の形を変えるからです。つまり、自然をつくり変えるからです。

人間が行っているすべての生産は、人間が生活していくために必要なことです。だが、すべての生産は、つきつめて考えてみると、自然を加工していることにほかならないのです。言いかえれば、自然の中から、いろいろなものを取り出して、これを加工するのが生産なのです。ですから、大げさな言い方のようですが、生産は自然とのたたかいのひとつだともいえましょう。そして、人間の生活は、生産の内容が豊かになり、拡大されるにつれて豊かになるのですから、わたしたちの生活が、今日のように高まってきたのは、とりもなおさず、人間が自然とのたたかいで勝利を重ねてきたからだといってよいでしょう。

この自然との間のたたかいに使われる武器が、生産に使われる用具——道具や機械などです。機械は、道具の進んだもの——人間の力以外の動力で動かされる道具なのですが、その道具——自然とのたたかいに使う武器を作り出したということが、自然とのたたかいにおける人間の勝利をもたらしたのでした「人間とは道具を作る動物だ」と、フランクリンというアメリカの学者は言いましたが、まさしく、人間以外の動物は道具を作ることができません。もちろん、機械など作れません。この能力は人間独特のものです。

この人間の能力のもとはなんでしょうか。それは人間の知えです。知えは人間が考えるところに生まれます。「人

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

間は考える動物」なのです。人間が考える動物であるということと、道具を作る動物であるということとは、深い関係があります。考えることができるから、道具や機械を作ることができたのですし、道具や機械を作ったからこそいよいよ考えるようになり、考える能力が発達していったのです。

人間は道具や機械を使って働きながら——自然とたたかいながら、どうすればもっと効果をあげることができるかと、いつでも考えている。そして、こうすればああなる、ああすればこうなるということを、経験を重ねるにつれて、しだいに理解するようになる。人間の考える力は、これを整理して筋道をたてる。いわゆる「法則」として理解するようになる。

ここに「科学」が芽生えてくるのです。今日、すばらしく発達している科学も、その芽は、人間の自然とのたたかい、労動というものの中に芽生えたものでした。だが、ひとたび科学が生まれ、物事を法則として理解できるようになると、それを、自然とのたたかいの中で生かすようになる。そうなると、道具や機械などは、ますます進んできます。「技術」といわれるものは、自然とのたたかい——労動——生産をしている中で、科学——法則として理解されているところを生かすことなのです。

ですから、科学と技術とは、同じ母親から生まれたものですが、科学が進めば、それにともなって技術が進み、技術の発達が科学の発達をいっそううながすのです。

注　釈

1．フランクリン――人名アメリカの学者。

言葉の使い方

1．「動詞連用形＋てほしい」の形で「動詞連用形＋てもらいたい」の意味を表わす。

○　両親には長生きしてほしい。

○　ちょっとそこまで行ってタバコを買って来てほしい。

○　早く帰って来てほしいとうちの息子に言ってください、

2．通じる（自他一）次のような意味がある。

①　交通、通信で、ある所とつながる。

○　町から村まで、バスガ通じている。

○　この道は京都へ通じている。

○　故障のため列車が一時通じなくなった。

○　線が切れたため電話は現在通じていないが、まもなく通じるだろう。

②　物事をくわしく知っている。

○　山田さんはフランス語に通じている。

○　私はこの町に来たばかりなので、まだこのへんの地理には通じていない。

③　相手にとどく。わかってもらえる。

○　発音が悪いと言葉がなかなか通じない。

○　自分の考え方を正しくほかの人に通じさせることはむずかしい。

④ 「……を通じて」の形で「長い期間や広い範囲にわたって」の意味を表す。

○ 季節風のおかげで、日本では、一年を通じて四季の移り変わりがきわだっている。

○ これは日本全国を通じて見られる現象だ。

3．「活用語の連体形＋はずが（は）ない」の形で「そういう道理、理由がない、またはそうなるべきではない」の意味を表わす。

○ 私にこんなむずかしい問題がとけるはずはない。

○ そんなことを小さな子供に言って聞かせても、わかるはずがない。

○ これは小学生の問題だから、中学生にはとけないはずがない。

○ 文学に多少とも関心のある人なら、この小説の名を知らないはずはない。

4．とも（接続助詞）

① 仮定条件を示し、その条件下でも下の事態が進行する意味を表わす。「ても」の文語的な言い方。

○ 苦しい目に会おうとも初志は貫く。

○ たとえ親の命令であろうとも、正しくないことはしない。

○ いかにこまるとも、がまんすべきだ。

○ いくら君が見たくとも、見せるわけにはいかない。

② 「いちばん大きい（小さい）時でも～ぐらいだ」というような、だいたいの量や程度を表わす。

○ この仕事をしあげるには、少なくとも三日はかかる。

○ おそくとも六月中にはできるだろうと思う。

5．…における

①「（場所、時を示し）…にある。…での。…の場合の。」の意味を表わす。

○　家庭における彼は実によい父である。

○　日本における四季の変化は他の国々には見られないものである。

②「…についての、…に関しての。」の意味を表わす。

○　日本語における彼の才能は実にすばらしいものだ。

6．「…にほかならない」の形で「前にあることから以外のものではない、…にまちがいない」の意味を表わす。

○　私が今話したことは、この本に書いてあることをわかりやすく説明したにほかならない。

○　よっぱらい運転は殺人行為にほかならない。

○　子供たちがおばあさんのうちへ遊びに行きたがるのは、こづかいをもらえるからにほかならない。

7．「…からこそ」の形で「前の文の内容が後の文の内容のただ一つの理由であることを強調する。」意味を表わす。

○　できないからこそ、いっしょうけんめいに勉強したのだ。

○　あなたがいたからこそ、この仕事も、うまく行ったのだ。

○　人間は理性たよって行動できるからこそ、人間といえるのではないか。

8．「…ままの（に）」の形で「その状態やことがらをつづけて変えない、そのとおりの状態」の意味を表わす。

○　見たままのことを話す。

○　帽子をかぶったまま部屋に入る。

○　テレビをつけたまま眠っている。
○　昼間なのにライトをつけたまま走っている。

9．「…につれて」の形で「一方が変わるとその変わり方と同じ程度に他方も変わる。そうなるに従って。…と共に。」の意味を表わす。

○　年を取るにつれて気力がなくなる。
○　月日がたつにつれて、いやなことは忘れてしまう。
○　金持ちになるにつれて、心配も多くなる。

表現法

1．呼びかけの表現

話し手が相手の注意を自分に向けさせるために語を発する場合の表現。

①　相手の名前、あるいは、それに類する語を用いる。
○　鈴木さん、マイカ――というのは何のことですか。
○　小林君、あした、あの本を持ってきなさいよ。
○　川上、その写真をちょっと見せてくれ。
○　太郎ちゃん、こっちへいらっしゃい。
○　先生，もう一度説明していただけないでしょうか。
○　お客さん、何のご用ですか。
○　お前、昨日どこへ行ったんだ？
○　みなさん、私と一緒に歌ってください。
○　諸君、がんばろうよ。
②　あいさつ語を用いる。
○　こんにちは。山田ですが、先生はおいででしょうか。
○　いらっしゃいませ、どうぞこちらへ。
③　感動詞を用いる。

○　もしもし、財布が落ちましたよ。
○　あのね、ちょっとおねがいがあるの。
○　ちょっと、げんかんに誰か来たようですよ。
○　こらこら、ここは子供の来る所じゃないぞ。
○　おい、おい、そこを通ってはだめだ。
○　やい、もっとはやく歩け。
④　に終助詞（及び、終助詞相当）を付けて用いる。
○　幸子や、ちょっとおいで。
○　次郎よ、もう泣かないで。
○　ねえ、おとうさんたら、いいでしょう。
○　おかあさんてば、いいでしょう。

2．応答の表現

話し相手のことばに対して言語主体が応じ答える場合の表現。

①　語というより声に近いもの。これは肯定否定の別を表さず、単に相手の言っていることを受けている表現。

○　「あなたは中村さんですか？」「え、中村です。」
○　中に入ってもいいですか？」「ええ、いいです。」
○　「あなたは日本人ですか。」「はい、私は日本人です」。
○　「おかし食べる？」「うん、食べるよ。」
②　語の形は①と同じでも肯定否定の別があるもの。
○　「これはあなたの万年筆ではありませんね。」「はい、それは私の万年筆ではありません。」（肯定）
○　「あしたも来てくれよ。」「うん、来るさ。」（肯定）
○　「きのうデパートへ行きましたか。」
「いいえ、行きませんでした。」（否定）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com